

# かお・人・interview

2020年10月2日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局  
佐賀河川事務所 所長

## 亀園 隆氏

takashi KAMEZONO

佐賀は、日本一の干満の差がある有明海に面し、ノリ養殖や独自の生態系など海の恩恵を受けている。また、佐賀平野は九州でも有数の穀倉地帯である。その反面、佐賀平野は低平地となっているのも事実。深刻な浸水被害に悩まされているのも事実。佐賀河川事務所は、城原川ダム建設事業の推進とともに、嘉瀬川ダムや佐賀導水路の維持管理を行う。住民の防災、安全対策はもちろん、ダムを活かした地域活性化など地域との連携が期待される。今後の取り組み、課題などについて新任の亀園所長に話を伺う。

### Q 所長就任にあたっての抱負

近年は気候変動等の影響によって、雨の降り方が極端化しており、洪水被害と渇水被害の両方への備えが重要になっています。全国各地で豪雨による災害が頻発し、九州も例外ではありません。当事務所は、本格化する城原川ダム建設事業の推進とともに、嘉瀬川ダム及び佐賀導水路を管理しています。

令和2年7月豪雨では、佐賀県内の鹿島を中心として、広範囲に浸水被害が発生しました。佐賀平野においても、7月1～14日までに多いところで800mm以上の大雨が降り、佐賀導水路では、全8機場17機で累計約980時間のポンプ運転を行うなど、排水量は、約1200万m<sup>3</sup>(福岡PayPayドーム約7杯)。佐賀平野内水被害の軽減を図りました。



▲開所式

また、令和元年は嘉瀬川ダムの貯水率が約12%と渇水状態となり、その後の大雨で貯水位は回復。河川管理者として、地元の佐賀県や佐賀市、神崎市等の関係機関と緊密な連携のもとで、地域に寄り添って、治水・利水インフラの整備と管理の必要性を再確認いたしました。事業が進む城原川ダムについては、住民の方々が住み慣れた場所を離れても、出来て良かった、事務所があつてよかった、と思われる存在を目指します。

### Q 九州や宮崎、延岡との関りについて

九州各县で勤務してきました。福岡県では、九州地方整備局本局で3回、筑後川河川事務所でも2回勤務し、本局では、主に河川改修・ダム建設の予算要求、執行に関わっています。



▼佐河（さが）・弘どう館の様子

筑後川河川事務所の調査課企画係長時代に、「今後の筑後川の治水安全度を、効果的に向上させる方法」を模索していました。筑後川から浸水した場合、昔から残る横堤（堤外地）がどう機能するかなども想定しながら、整備の優先箇所を考え、大刀洗水門など大型の水門築造に対しては、地元調整に駆け回り調整したことなど、現場と向き合って仕事をした想い出があります。当時は、城原川や寒水川などの筑後川の支川の堤防の越水、浸食等があり、その対策立案も行いました。

他に、川と人とのつながりを進めるため、久留米市の合川地区での築堤緩傾斜化や高良川にかかる橋梁を含めた導線確保、防災施設の「くるめウス」の立案にも関わったのもいい経験です。後に、赴任したのは、筑後川河川事務所の防災推進対策官時代、筑後川河川事務所での現場で培った知識と経験が役立ちます。佐賀導水路や嘉瀬川を所管していましたので、佐賀平野の大規模浸水協議会やマイ防災マップづくりで、関係機関や地域の方々和被害リスクの最小化を議論していました。



IT技術のスキルアップのため  
デジタルトランスフォーメーション部の  
立ち上げなど、業務の効率化に  
つながる活動に力を入れています。

昨年度までは、国土交通省治水課の直轄ダム課長補佐として全国のダム建設事業に関わりました。この経験も佐賀平野の治水・利水対策に活かしていけるよう頑張っていきたいと思っています。

### Q 当事務所の紹介 (事業内容、組織、特徴)

城原川ダム建設事業の促進、併せて佐賀平野の治水・利水等に寄与する嘉瀬川ダム、佐賀導水路を一体的かつ適切に管理することを目的に、令和2年4月1日に佐賀市内に国土交通

省九州地方整備局佐賀河川事務所を設置しました。

組織は、事務所本所と嘉瀬川ダム管理支所を合わせ33人(事務11人、技術22人)です。少人数の事務所だからこそできる、創意工夫。地域や関係機関との信頼確保。問題があった場合も、所長や上司に相談できる職場環境を心がけています。

仕事の枠組みを超えるため「佐河(さが)・弘どう館」と称して勉強会を行っています。座学や研究発表、外部講師を迎えるなど積極的に活動しています。地域活性化にも寄与する広報部、IT技術のスキルアップのためデジタルトランスフォーメーション部の立ち上げなど、

▼ダム湖を活かしたカヌー競技



事業が進む城原川ダムは、  
水没地の皆様が古里を離れます。  
住み慣れた場所を離れるのは簡単ではありません。  
意見に耳を傾けて対応したいと思います。

▲城原川ダム予定地

職員の知識向上と業務の効率化、事務所の一休感に力をいれています。

### Q 今年度の事業概要

令和2年度の事業予算(諸経費除)、河川総合開発事業費：城原川ダム779百万円、堰堤維持費：佐賀導水 665 百万円、嘉瀬川ダム 460 百万円、総合水系環境整備事業：嘉瀬川ダム 31 百万円となっています。

城原川ダムは、用地調査や付替道路設計の現地調査に着手し、ダム本体関連の地質調査等を行っていきます。嘉瀬川ダムは、平成30年に「かわまちづくり」計画に登録され、今後、佐賀市と連携して、ボート競技等のイベントに対して水辺空間整備を行っていきます。令和2年は、法面保護工を行う予定です。その他、嘉瀬川ダム、佐賀導水路の運用・維持・管理を行っていきます。

### Q 地域との連携・協働について

城原川ダムについては、昭和46年の予備調査以降、非常に長い期間が経過しており、特に水没地区やその周辺の住民の皆様には生活再建面で不安を与えています。今年度から、用地調査、付替道路の現地調査に着手すべく、5月末からこれらの現地調査について地元への説明会を実施するなど、新たな段階に入っています。今後とも地域に寄り添い事業推進を行っていきます。

嘉瀬川ダムを活かした地域活性化については、近年、嘉瀬川ダムへの観光客が増加しています。最近は、



▲城原川ダム地元説明会

全国的にダムそのものが、観光のスポットとして人気を博しており、ダムの大きさや非日常を感じるために訪れる方々や、「ダムカード」や「ダムカレー」といった、付加価値で楽しめるもの、ダムを活かした各種イベントなどが催されています。今後、嘉瀬川ダムにお

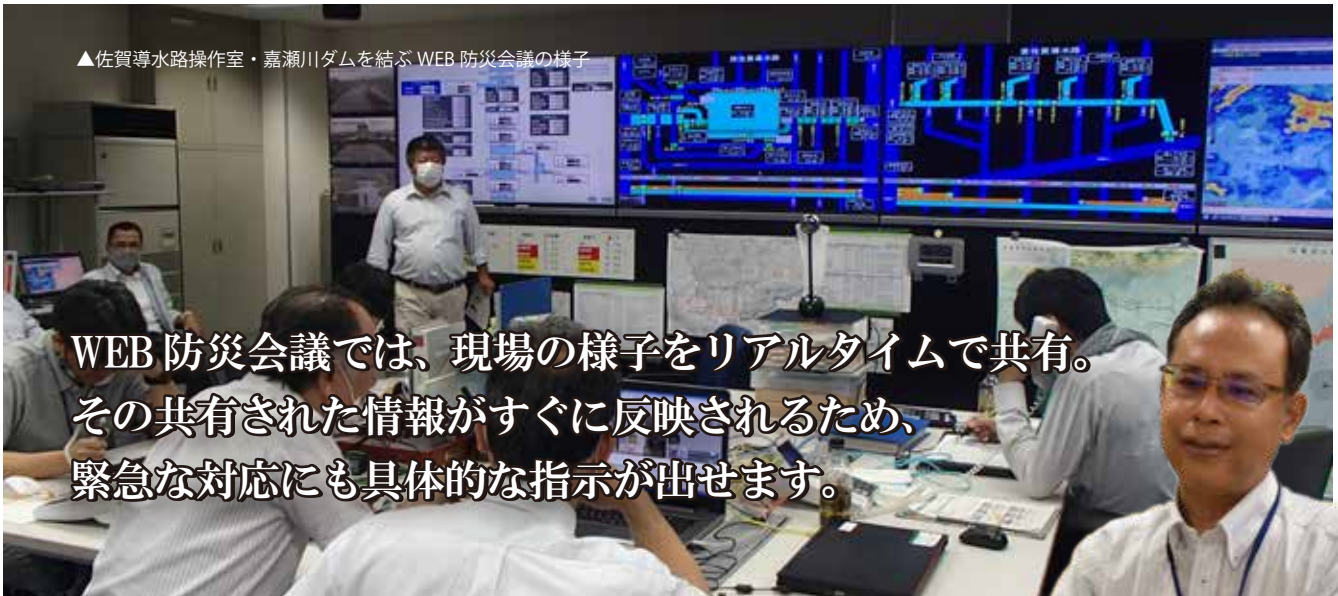
いても、アフターコロナとして、ソーシャルディスタンスを保ちながら、より魅力的な観光スポットとなるよう、地域とも連携した取り組みを行っていきたくと考えます。

7月には、等身大の「Myダムカードフォトフレーム」を設置しました。ダムをバックに写ることが出来る写真スポットになればと思っています。今後は、ダムの下流にあります、「古湯温泉」、「熊野川温泉」とダムを連携する施策を模索したいと考えています。また、国スポに向けて、ダム湖を活かしたカヌー競技の会場の整備も佐賀市とともにやっていく予定です。



▲嘉瀬川ダムフォトスポット

▲佐賀導水路操作室・嘉瀬川ダムを結ぶWEB防災会議の様子



**WEB防災会議では、現場の様子をリアルタイムで共有。その共有された情報がすぐに反映されるため、緊急な対応にも具体的な指示が出せます。**

### Q 地域建設業への要望・メッセージ

建設業は地域を支える重要な産業です。気候変動の影響で豪雨が頻発化する中、災害への対応等も含め、その役割はますます重要となっています。当事務所においては、嘉瀬川ダムや佐賀導水路、城原川ダム建設予定地の管理区域内で、洪水時、地震時に異常がないかの巡視や災害時に迅速に応急復旧対策等に対応できるよう地元の建設会社と協定を結んでいます。地域の地理等を熟知しているからこそ、このような豪雨が頻発する中でも迅速に対応していただけるものと思っております。日頃の対応についてこの場を借りてお礼を申し上げます。

城原川ダム建設事業についてはこれからですが、新型コロナウイルス感染症対応での現場環境の工夫についても、お互いに協力しながら事業を推進していきたいと思っております。若い世代が建設業に入ってくるよう、嘉瀬川ダムや佐賀導水路などの既存の土木施設の魅力や、世の中に役立っていること、また、それらを造る仕事の楽しさなどを当事務所から広く発信していきたいと考えています。

### Q 趣味や健康法について

特に偉人の言葉を引用していませんが「その土地を知り、その土地を愛する。その人を知り、その人に寄り添う。」をモットーとしています。地元へ事業の説明に行くと、住み慣れた場所を離れる気持ちは、あなたたちには理解できないと言われるます。

親が転勤族だったせいもあり、故郷と呼べる場所が私にはありません。だからこそ、その土地の歴史や風土、文化を学び、人々の思いを受け止め事業を進めて



いきたいと思っています。

ダムを中心とした、土木構造物の写真撮影が趣味です。多くの構造物がそうですが、作られる場所、時代によって求められるものが違います。シンプルなものもあれば、周辺の施設と組み合わせられ、地域活性化に役立っているものなどスタイルは様々です。道の駅ならぬ「ダムの駅」も生まれてきました。これからは、意識的に広報活動にも力を入れていきたいと思っております。最近はその関係で乗っていませんが、ロードバイクで土木構造物を撮るのも楽しんでいます。河川沿いを走ると、視点が変わって写し出される写真もまた格別です。

#### プロフィール



出身地：鹿児島県  
 生年月日：昭和40年5月6日（55歳）  
 H1年4月 建設省入省  
 H21年4月 筑後川河川事務所防災対策推進官  
 H23年4月 菊池川河川事務所 工務課長  
 H25年4月 川内川河川事務所 開発工務課長  
 H26年4月 河川部河川工事課 課長補佐

H29年4月 川辺川ダム砂防事務所 副所長  
 H30年4月 国土交通省 水管理・国土保全局治水課長補佐  
 R2年4月 現職

資格：技術士（総合技術監理部門・建設部門）、1級土木施工管理技士